

年頭所感



一般社団法人日本マグネシウム協会
会長 井上 正士

新年あけましておめでとうございます。

令和7年初の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

能登半島地震に始まり、猛暑、大雨などの自然災害や、円安、物価高の進行、そして緊迫が続く世界情勢と、令和6年は平穏とは言えない日々が続く一年となりました。我が国のものづくりの業界も、自動車業界の不振や、人手不足、物価高などの影響もあり、回復、成長の波には乗り切れず、今が踏ん張りどころと言える状況にあると思います。

我が国のマグネシウム業界におきましても、10年前まで約4万だった国内需要量が、令和5年には約3万トンになりました。令和6年の国内需要量は、事前の予測や輸入量を見ますと、前年からは数%のプラスになると見られていますが、ものづくり業界全体の動向と同様に、まだまだ厳しい状況が続いていくものと感じております。

このような状況の中、昨年、当会は世界のマグネシウム業界における一大イベントと言える国際マグネシウム協会（IMA）によるIMA国際会議を誘致し、約30年振りの日本開催が福岡市において実現しました。この時に、コロナ禍で実行することができなかった、当会設立30周年記念祝賀会を3年越しで実施することができました。海外から100名を超えるマグネシウム関係者を迎えることができ、マグネシウム業界の発展に向け重要な役割を果たす事ができたと感じております。

この国際交流の際に実感した事の一つとしまして、マグネシウム原料の生産一極集中状態を変化させようという世界的な意識の高まりがございませう。最近のマグネシウム地金の価格はアルミニウムの新地金並みとなり、安定的にも推移していますが、3年前に起こった、マグネシウムの地金価格急騰、供給不安は、未だに世界のマグネシウム業界に影響を与え続けており、マグネシウム原料の安定供給に向けた対策として、世界各地でマグネシウム製錬のプロジェクトが動き始めています。

我が国におきましても、令和5年度まで3年間のNEDO事業として、電解法によるマグネシウム製錬の先導研究を実施して参りました。当会もこの研究に参加しており、現在は、この研究成果を実用化段階まで達成させるべく、新たな製錬プロジェクトの立案を進めております。マグネシウムは軽量化に貢献する材料というだけでなく、アルミニウム、鉄鋼、チタン、化学品などの製品にも欠かせない材料であり、マグネシウム自体の需要量の割に、国内経済に与える影響は計り知れないほど大きいと言えます。当会は、本年もこの重要な材料の国内生産の実現に向けた取り組みに参画し、関係者の方々と共に製錬プロ

プロジェクトを実現させるべく検討を進めて参ります。

国内のマグネシウム業界は、新規のアプリケーションや他の材料の現状を見ますと、すぐに大きく需要が回復するとは言い難いですが、今後の発展、成長に向けた製造技術の開発や応用的な研究は着実に進められています。

自動車のダイカスト部材、鉄道車両の展伸材部材では、各種プロジェクトの成果により、新たなアプリケーションへの応用が期待される開発が続けられており、航空宇宙関連、福祉機器関連、医療関連などでも、高まるマグネシウムのニーズに応えるべく開発が行われています。嬉しい話題としましては、昨年パリ・パラリンピックにおける車いす競技におきまして、マグネシウム合金製の車いすを使用する日本人選手が躍動し、テニス、ラグビーでは金メダルを獲得しました。マグネシウムが金メダル獲得に貢献したと知り、喜びもひとしおでした。進捗する技術開発によって、本年も、皆様の喜びに貢献し、お役に立つようなマグネシウムのアプリケーションが登場することを期待しています。

我が国では昨年11月に第2次石破内閣が発足し、本年は米国で第2次トランプ政権が始動します。世界情勢の変化は必至であり、金属業界への影響も懸念される一年となりますが、当会は、政府らから発信させる情報を会員各位と共有しながら、業界の健全かつ安定的な発展に努めて参ります。我が国のマグネシウム産業の成長と日本マグネシウム協会の充実に対し何卒倍旧のご支援をお願いいたしますと共に、会員並びに関係各位のご健勝とご発展を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。